

授業改善等に関する報告書（2020 年前期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2020（前期）食生活科学科 食物科学専攻] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
毒性学	井部 明広	オンデマンドではあったが、対面よりも学生みなさんの理解度がよくわかった。資料については、カラーで配信したほうが良い場合があったと反省している。質問も多く、対面でもしてほしい。
食品鑑別論	奈良 一寛	授業の理解度を向上させるためにも、予習の課題設定について検討していきたい。
生化学 a	山崎 壮	<p>コロナ禍で始めてオンライン授業を行うことになり、資料配付型のオンデマンド授業を行いました。私にとって初めての経験であり、従来以上にデジタル教材・映像教材をり利用するなどの工夫をしたつもりでしたが、オンライン授業を行うだけで教員として精一杯であったことから、学生さんたちには不満な授業であったことが理解できました。特に、資料を読むだけではなく、肉声による解説を聞きたかったとの意見には反省しています。ご免なさい。この科目のありかたを含めて改善することをめざします。</p> <p>これまでの授業経験から、「生化学a」で取り上げる履修内容に興味を感じる学生と興味を感じない学生の差が大きく、一人一人の理解に個人差が大きいのことがわかっていました。今年度の授業アンケートの自由記載欄の意見からは、例年の対面授業の時以上に、授業内容に対する興味と理解度の個人差が大きいのことがわかりました。資料配付型のオンデマンド授業では、興味を感じない学生には配布資料を読んで自己学習することが困難ですから、「生化学a」の履修者プロフィールのケースでは資料配付型のオンデマンド授業は不適切であり、対面型授業が好ましいとわかりました。皆さんには申し訳なかったと思っています。次年度は可能な限り対面型授業、それができない場合でもZoomによる映像配信授業にはすることにします。</p> <p>今後の専門科目の授業で栄養生化学領域でわからないことがあれば、質問に来てください。今度は対面で説明します。</p>
家族関係論	細江 容子	<p>今回、COVID-19の問題によるリモート対応で、Q7の「説明はわかりやすかったですか？」との質問に対して十分でない部分があったと考える。教員自身初めてのリモート授業対応であり、どの様な対応が学生に対してより良い講義を実現できるかが手探りの状況であった。ManabaやZoomなどでの授業に関して他大学の教員との情報の共有を行うなどしたが、他大学でも同じ状況であり、十分な情報は得られなかった。さらに他の教員の倍近いコマ数を抱える中、1年生のクラス担当として1年生の対応にあたるなどで、睡眠を4時間まで削るなどで時間を捻出したが、時間がいくらあっても足りないのが現状であり学生への十分な対応にいたらなかったことがQ7の要因となったと言えよう。</p> <p>Q10. 『担当教員の声や言葉は、聞き取りやすかったですか？（オンデマンド授業の場合は、「3. どちらともいえない」を選択する』であり、この項目に関しては、学生が3を選択しても問題ないと考える。</p>
食品学 a	奈良 一寛	授業の理解度を向上させるためにも、予習の課題設定について検討していきたい。
フードスペシャリスト論	杉山 靖正	コロナ対応のためZoomでの開講となりましたが、講義内容に興味をもった学生が多く、総合的に判断して本講義に対して満足してもらえたことが窺えます。充実した学生生活となるよう、この調子で今後も多くのことに興味をもち、積極的に学んでください。
食品分析学	杉山 靖正	講義への満足度の高さが窺える一方、さらに学びたいと思ってもらえるように応用例をもっと加えるよう工夫したいと思えます。コロナ対応のためZoomでの開講になった点は、特に問題はなかったようですが、やはり対面で受講生の理解度を確認しながら進めていきたいと考えています。
食品加工学 a	守田 和弘	コロナの影響によりオンデマンド型の授業となりましたが、総合的な満足度は全体平均より高いことから、概ね満足して学習いただけたものと思います。
フードコーディネート論	数野 千恵子	オンデマンドでの授業で、言葉を尽くしても写真では説明が難しい部分があったと思う。3年時に、今回の授業の1部ではあるが、実際に見たり触ったりできる演習授業が開講されているので、履修を検討してもらいたい。質問しやすさへの工夫が少し足りなかったように思うので、次からは検討する予定である。
家庭工学	加藤木 秀章	家庭で工学がより多く使われてきており、生活用品への利用例が多くあります。少し見てみると意外な発見をするので、詳細にみてもと学修の効果が上がると思います。

[2020（前期）食生活科学科 食物科学専攻] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
調理学実験 b	数野 千恵子	満足度はほぼ良好であった。 実験を通して、料理に使用する材料や調味料の違い、投入順序などが、調理の際の味覚や仕上がりに大きく影響することを知って欲しい。一つ一つの食材の役割や性質を科学の理論で理解して、おいしく調理をするためや、おいしい食品を開発するために役立ててください。今後の成長を期待しています。
食品学実験 b	杉山 靖正	講義への満足度の高さが窺える一方、さらに学びたいと思ってもらえるように工夫する課題をいただきました。今後役に立つことを理解できる内容を追加していきたいと思います。
食品衛生学実験	井部 明広	対面で行えたため、学生みなさんの知識や技量が良く理解でき、実験の意味を伝えることができたと思う。
基礎化学	山崎 壮	コロナ禍で始めてオンライン授業を行うことになり、資料配付型のオンデマンド授業を行いました。私にとって初めての経験であり、従来以上にデジタル教材を取り入れるなどの工夫をしたつもりでしたが、オンライン授業を行うだけで教員として精一杯であったことから、学生さんたちには不満な授業であったことが理解できました。ご免下さい。特に、計算問題に苦労したこと、PC操作が苦手な苦労したこと、高校で文系コースにいたから理解できないことを書いている学生が例年以上に多かったことから、例年以上に理解に個人差が大きかったことが推測されました。この科目のありかたを含めて改善することをめざします。 これまでの授業経験から、「基礎化学」で取り上げる履修内容に興味を感じる学生と興味を感じない学生の差が大きく、一人一人の理解に個人差が大きかったことがわかっていました。資料配付型のオンデマンド授業では、興味を感じない学生には配布資料を読んで自己学習することが困難ですから、「基礎化学」の履修者プロフィールのケースでは資料配付型のオンデマンド授業は不適切であり、対面型授業が好ましいとわかりました。皆さんには申し訳なかったと思っています。次年度は可能な限り対面型授業、それができない場合でもZoomによる映像配信授業にはすることにします。 今後の専門科目の授業で「基礎化学」で取り上げたような高校の「化学基礎」の領域および栄養生化学領域でわからないことがあれば、質問に来てください。今度は対面で説明します。
栄養と健康	辛島 順子	「栄養と健康」では、疾病の一次予防の視点から、1年次・2年次で学んだ内容に追加して、健康に関する施策や食事摂取基準、ライフステージ別の健康管理などを学びました。 ライフステージ別の特徴や食生活についてなど、今後の日常生活においても学んだことを役立ててください。 また、これから受験するフードスペシャリスト試験や将来の進路を考える際に、学習した内容を参考にしてください。
微生物学	守田 和弘	コロナの影響によりオンデマンド型の授業となりましたが、総合的な満足度は全体平均より高いことから、概ね満足して学習いただけたものと思います。
食品衛生学 a	井部 明広	オンデマンドではあったが、対面よりも学生みなさんの個々の声が聞けたと思う。対面においても質問等をしやすくしたい。提出レポートもよく考えて答えてくれた。
保育学	井口 眞美	保育現場に出向けなかったことは残念でしたが、保育学について興味を持ってもらえればと願って授業を進めてきました。今後子どもや保育に関心をもって生活をしてください。
食品学実験 a	奈良 一寛	配布資料を工夫するなど、操作手順について詳しくまとめるようにしたい。
基礎調理 1	佐藤 幸子	COVID-19の対応のため、これまでの調理実習授業の体制から、20人1クラスの少人数体制の授業実施でした。そのため、個々のスキルの把握ができました。その結果、皆さんにはこれまで以上に自宅での調理実習の機会をぜひ増やしてもらいたいと思います。経験を重ねることで、定着する技術を得ることが出来ます。日々努力していきましょう！
公衆衛生学 a	佐々木 溪円	オンデマンド方式に関する意見も含めて様々な意見をありがとうございます。今般、新型コロナウイルス感染症の検査や対策が政策論争の道具にされしまったり、「新型」「未知」という言葉による恐怖感で過剰な対策が見られたりしています。食生活に関することも含めて、健康危機は毎年のように発生していますし、今後も発生するでしょう。大学で食生活を学んだ「プロフェッショナル」として、今後も自分の力で考えて、社会で活躍してください。

[2020（前期）食生活科学科 食物科学専攻] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
調理学 a	中川 裕子	zoomでの授業形式については、対面と変わらず受けられたという意見が多く、チャットやmanabaを通して積極的に質問をしてくれたこともありQ4の理解度について平均より高かった。 課題が多かったという意見があったが、大半の方が毎回提出していたので、zoom以外にも学修時間を費やして深く学んでくれたように思う。
調理学及び実習	佐藤 幸子	皆さんの真摯な姿勢の授業は、教員としても大変励みになりました。授業で作成した教材を今後の食教育活動に応用してください。食生活の環境は、時代により刻々と変容しています。情報収集を常日頃より取り組んでいきましょう！